

# 放射線防護ズボン開発

## 八尾の「創造科学研究所」

環境保全製品の研究・開発を進める「創造科学研究所」(八尾市、岩村広子社長)は、外部の放射線を3割遮蔽することができ、防護ズボンを開発した。従来の製品に比べ、比較的安価で軽量だが、効果は高いという。

### 安くて軽く、効果◎



同社取締役の岩村淳一・品開発論)が放射線の専門千葉商科大学客員教授(製家と昨年10月頃から研究を

進めてきた。放射線は、距離が離れるほど影響力が落ちる性質に着目。はっ水性の高い生地と生地間に、合成繊維の綿を詰め込み、その綿の表面に遮蔽効果が高いホウ酸や活性炭、少量の水分を付着させた。衣服の上から着用し、放

開発された放射線遮蔽ズボン(八尾市で)

射線を帯びたほこりや粉末が付くのを防ぐことができ、ほく、透過も防止することができるといふ。販売予定価格は4万5000円で、重量は約1キ。同様の防護服はすでに同業他社が開発を進めているが、数十キの重さで数百万円の価格のものがあるといふ。

同社では今後、防護用の上着の開発を進めるほか、衣料品製造会社などと連携してズボンの販売を実施していきたい考え。

岩村教授は、「放射線の遮蔽用の防護服といえは高価で重厚というイメージがあるが、工夫すれば商品が作れることが証明できたのではないかと話している。問い合わせは同研究所(072・998・4364)へ。

# 放射線30 | 35%遮蔽

## 創造科研 作業者向けズボン発売

【東大阪】創造科学研究所(大阪府八尾市、岩村広子社長、072・998・4364)は、放射線を約3割遮蔽できるズボン(写真)を発売した。試作品を用いた実験で約30~35%の放射線遮蔽率を確認した。

ズボンは衣服の上から身につけ放射性物質を含む土などが表面に付いて

も洗い流せる。重さは約1キロ。サイズはS、M、L。子ども、女性、東日本大震災の被災地での作業従事者への販売を見込む。価格は1着4万5000円。

放射性遮蔽ズボンは、エヌケーコーポレーション(愛知県岡崎市)が製造する。ホウ酸水溶液を噴霧したポリエステルの



果について「ポリエステル綿のホウ素、活性炭に放射線が衝突し放射能が弱まるため」と見ている。

綿、活性炭を塗布したポリプロピレン不織布入りのパックで放射線を遮蔽する。パックはズボンの内側に収納し取り外せる。ズボンの表面はポリウレタン、内側は綿で、側面は全開できるファスナーで着脱を容易にした。

実験では、線源から1メートルの放射線量は平均毎時1.7ミリシーベルト。ズボンを通して線量を測定すると平均値毎時1.08ミリシーベルト・13ミリシーベルトに下がった。

創造科学研究所の岩村淳一取締役(元近畿大学教授)は、放射線遮蔽効